

平成28(2016)年度 南小学校 研究推進計画

南小学校 研究推進委員会

1 研究テーマ及び設定理由

(1) 研究テーマ

「伝える・つながる・高め合う学び」
～自ら表現し、深め合える授業づくり～

(2) テーマ設定の理由

平成20年度から22年度までは『表現力を育てる豊かな学び』をテーマに掲げ、「話す・聞く」の指導を通し、音声言語に関する力の育成に取り組んだ。また、平成23年度から25年度までは『伝える・つながる・高め合う学び～国語科を通して確かな学力を身につけ、自ら表現できる子どもを育てる～』というテーマのもと、「話す・聞く」に加え、「書くこと」の指導を通し、文字言語に関する力の育成にも取り組んできた。

この6年間、教師が「話す・聞く」「書く」ことについて「どの子ども話せる、聞ける、書ける」ことを目指し、ペアやトリプルでのトーク、ルーブリック評価、パターンプラクティス、PMIシートなどを指導に取り入れる中で、子どもたちの力も育ってきた。しかしまだ、「伝える・つながる・高め合う学び」＝「子ども同士の学び」まで到達したとは言い難い。残る課題としては、次のようなことが挙げられた。

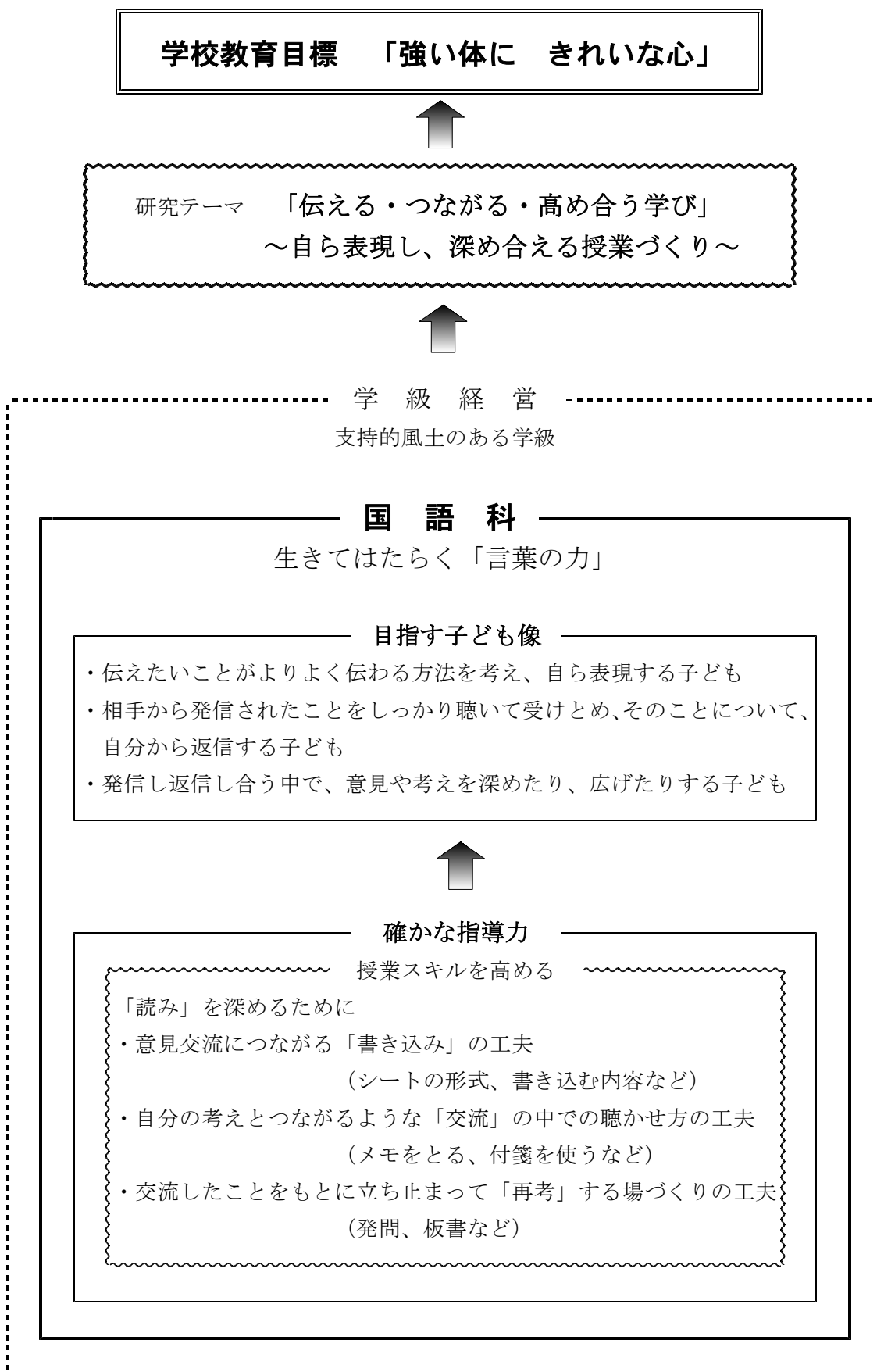
- ・身につけたスキルをどのように活用するか自分で考え、判断する力。
- ・発信されたものを受け、思考し、深めたり広げたりする力。
- ・個人によってスキルの定着が異なっていることに対する授業の中での対応。

そのため、平成26年度から3年計画で「伝える・つながる・高め合う学び」をテーマに掲げ、研究に取り組んできた。研究テーマを具体的な子ども像で表すと、以下の通りである。

- ・「伝える」とは、伝えたいことがよりよく伝わる方法を考え、自ら表現する子ども。
- ・「つながる」とは、相手から発信されたことをしっかり聴いて受けとめ、そのことについて、自分から返信する子ども。
- ・「高め合う」とは、発信し返信し合う中で、意見や考えを広げたり、深めたりする子ども。

テーマを達成するためには、教師の指導力の向上が重要になってくる。授業の中に「書き込み→交流→再考」という一連の手立てを取り入れつつ、子どもの意見を絡み合わせるような教師の発問や、授業の中での交流が目に見えるような板書等に視点を当て、教師の授業スキルを高めていく。また、若い教師が増えてきている今、授業の中での立ち位置やノート指導、机間指導の仕方等にも着目しながら、誰もが子どもたちの力を伸ばせる指導を目指し、研究を進めていく。

2 研究構造図



3 研究内容

(1) 本年度の方向性

平成20年度から25年度までの6年間で、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の3領域に焦点を当て、音声言語と文字言語に関する力の育成に取り組んできた。それを受け、平成26年度から「読むこと」の領域に焦点を当て、研究を進めている。「読むこと」を充実させるためには、これまで培ってきた「話す・聞く・書く」ことに関する力は欠かせないものである。子どもたちが持つそれらの力を、どの場面でどのように生かし、「読むこと」につなげていくかは、教師の授業づくり、そして指導力にかかっていると考える。

平成26年度から3年計画で、「子どもたちが自ら表現し、深め合えるような授業」をつくりあげられるよう、教師の指導力向上を目指して研究に取り組んでいる。子どもたちそれぞれの発言が絡み合い、思考が深まっていくような対話型の国語科の授業を目指していく。その中で、子どもを本気にさせる発問や、課題に向けて子どもの意見や思考が焦点化し発展するような板書を研究していく。また、教師の立ち位置やノート指導、机間指導等にも着目していきたい。研究テーマにせまるために必要な教師のスキルに視点をあて、授業づくりに取り組んでいく。

平成27年度の研究評価では、次のような実態が挙げられた。

【児童の実態】

- ・「書く力」「交流する力」「言葉や文章に着目して、交流したり読み取ったりする力」がついてきた。
- ・「交流する力」「再考する力」がついていない児童もいる。

【教師の実態】

- ・「書き込み→交流→再考」という授業の流れがパターン化されてきた。
- ・教材研究、授業づくりの焦点化ができた。
- ・交流を深める教師の関わり（発問、板書）や再考のとらえ方に課題が残る。

これらの実態を視野に入れながら、今年度は教材を物語にしぼり、「書き込み→交流→再考」という一連の手立てを取り入れた授業づくりについて研究を進める。

(2) 具体的に

【目指す授業】

- ・自分の言葉で思考し、自分らしい言葉で表現できる授業
- ・自分らしい考えや言葉で相手を感じさせたり、共感させたりしていくような授業
- ・友だちの考えを聴き、自分の考えを広げたり深めたりできる授業

【教師の工夫】

- ・「書き込み」には…子どもを本気にさせる「問い」をつくる
「書き込みシート」の工夫（何をどのように書くのか、形式 etc.）
- ・「交流」させるためには…比較したり理由づけしたりするなど論理的に思考し、相手にわかりやすく説明できるようにするポイントの明確化がある
聴き方系統表を使った聴かせ方の工夫
(メモをとる、付箋を使う etc.)
- ・「再考」は…子どもが表現した事柄のどこを焦点化し、どのように深化・発展させて、ねらいに到達させるかが重要
場の工夫（発問、板書 etc.）

(3) 校内研修計画（公開授業はすべて、参観、事後研究ともに全職員で行う）

- ・ 4月19日 研究全体会…2016年度研究推進計画について
- ・ 1学期 公開授業…6月 8日（水） 2年 川谷学級
6月 22日（水） 4年 谷口学級
- ・ 8月 夏季研修
- ・ 2学期 公開授業…10月 26日（水） 6年 小野学級
- ・ 3学期 研究発表会…2月 10日（金） 1年 桑内学級
3年 西田学級
5年 増田学級
- ・ 3月 研究全体会…2016年度研究評価について
- ・ 年間を通して パワーアップ研修
 - ・ 学期に2, 3回 1講座45分程度
 - ・ 参加は強制ではなく、希望者で集まる
 - ・ 職員の中から講師をたて、得意分野や裏技、秘策などを座談会的に教え合ったり、テーマを決め、トリプルを使って交流を行ったりする

2016年度 研究推進計画 簡略図

第Ⅰ期 H20～22年度

『表現力を育てる豊かな学び』…話す・聞く

第Ⅱ期 H23～25年度

『伝える・つながる・高め合う学び

～国語科を通して確かな学力を身につけ、自ら表現できる子どもを育てる～』

…書く

第Ⅲ期 H26～28年度

『伝える・つながる・高め合う学び

～自ら表現し、深め合える授業づくり～』…読む

◎教材 : 国語科 物語

◎手立て : ① 意見交流につながる**書き込み** (一人学び)

② ①を使った**交流** (グループ、クラス全体での学び)

③ ②をもとにしての**再考** (②と同時進行、または②の後に場作り)

◎教材、手立てを生かすために

・国語科の研究であることを意識し、**言葉にこだわった読み**を目指す

・お互いの意見を出し合いやすく、認め合える**クラス作り**

◎研究発表会での提案内容

誰にでも一定の成果が出せるような授業づくりのスキル